

# 東京ユニバーサル・フィル ハーモニー管弦楽団

## ※第30回記念定期演奏会

〈三石十ユニ・フィル・  
ファイナルコンサート〉

三石精一が東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団と、常任指揮者・音楽監督としての最後のコンサートを開く。奇しくも第30回の記念演奏会となった。曲目はラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調、ベルリオーズ／幻想交響曲、他。ラヴェルのソリストは花房晴美。指揮の三石氏からコメントが届いているのでご紹介したい。

「第30回記念となる今回のユニ・フィルの定期演奏会で、1997年のユニ・フィル発足当初から現在迄全ての定期の指揮をして来た音楽監督三石精一と、東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団のコラボは完了する事となりました。回を追う毎に評価を高めて来たこのコンビを解消する事は大変残念なのですが、諸般の事情により定期演奏会からの撤退を余儀なくされてしまいました結果、NPO法人ユニ・フィル自主公演

運営機構が2007年の第21回から主催して来た定期演奏会は今回を以て終了とし、三石はユニ・フィルの音楽監督・常任指揮者から自ら退く事を決定しました。しかし、勿論これは三石の引退やユニ・フィルの解散を意味するものではありません。

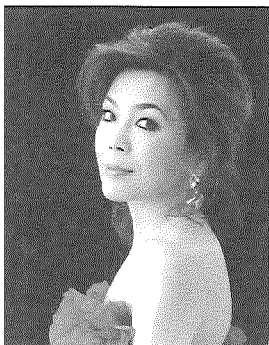
そのような次第で、今回の定期は《三石十ユニ・フィル・ファイナルコンサート》と銘打ち、30年来の親友であるとともに、日本を代表する名ピアニストの花房晴美さんをソリストにお迎えして、サ

ントリーホールで爽やかなフランス音楽の代表的作品ばかりを取り上げ、華やかに有終の美を飾る事にしました。

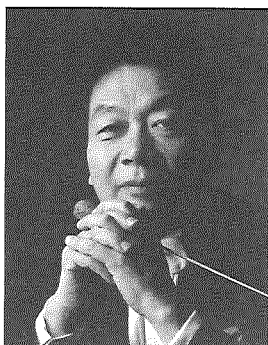
曲目は、印象派の先駆けとなったドビュッシーの『牧神の午後への前奏曲』、ラヴェルが円熟した全ての技法を駆使して作曲し、彼の神髄を余す所無く表現しているピアノ協奏曲ト長調、その約100年前に、当時の音楽としては信じられない程の画期的手法で作曲されたベルリオーズの革命的な金字塔『幻想交響曲』の3曲を選びました。どの曲も音楽史上に燦然と輝く記念碑的な名作ばかりですので、我々コンビの最終コンサートに最も相応しいプログラムであると思っております。我々の最終回に懸ける熟演と、それに花を添えて下さる花房さんの絢爛たる音楽にどうぞご期待頂きたいと思っております。

（三石精一）

15年間にわたる三石氏とオーケストラとの共同作業でユニ・フィルは日本オーケストラ連盟の準会員になるまでに成長した。三石氏とオーケストラの更なる発展を期待したい。



花房晴美 (©武蔵章)



三石精一